

平成29年度

一般会計決算に係る主要な施策の成果等報告書

西いぶり広域連合

1. 西いぶり広域連合一般会計予算の執行と成果の概要

(1) 一般会計補正予算の状況 () は、当初予算額及び補正後予算額を示す。

(単位 千円)

区 分	補 正 額	補 正 の 主 な 内 容
当 初 予 算 29. 2. 20 議決	(2, 411, 511)	
補正予算第1号 29. 7. 31 議決	15, 048 (2, 426, 559)	子ども・子育て支援システム改修、市町村事務処理標準システム北海道クラウド対応経費、循環型社会形成推進地域計画策定業務等委託料
補正予算第2号 29. 9. 1 議決	42, 896 (2, 469, 455)	住民基本台帳システム等改修、福祉システム改修
補正予算第3号 30. 2. 20 議決	8, 843 (2, 478, 298)	社会保障・税番号情報連携データ標準レイアウト変更対応経費、介護保険システム改修、収納消込システム改修、福祉システム改修
補正額合計	66, 787	

(2) 歳入歳出予算の執行結果

予算現額との比較で、歳入では、翌年度への繰越事業の未収入特定財源を除くと 66, 522 千円の減収となりました。これは、空き缶・ペットボトルの資源回収物売払収入の増加があったものの、歳出で不用額が生じたことにより関係市町負担金が減少したことなどによるものです。

歳出では、繰越明許費 15, 520 千円を除き、67, 382 千円の不用額が生じました。この主な要因は、予算額に比べ、共同電算に係るシステム保守委託料の減少等による情報処理費の減、西胆振地域廃棄物広域処理施設の運転保守管理受託会社への暫定的な支援額が減少したことなどによる中間処理施設運営費の減などによるものです。この結果、実質収支額(決算剰余金)は、860 千円となりました。

(3) 債務負担行為

平成 29 年度に債務負担行為を設定した事項について、契約締結等による平成 30 年度以降の支出額は次のとおりです。

(単位 千円)

事 項	限度額	30 年度以降 支出額	支出期間	備 考
入退室管理システム更新	17, 600	7, 007	平成 30 年度から 4 年度以内	
共同電算用システム等保守業務委託	52, 200	51, 832	平成 30 年度	
財務会計システム保守業務委託	47, 600	45, 913	平成 30 年度から 7 年度以内	
乳幼児医療費助成システム改修 業務委託	8, 600	8, 532	平成 30 年度	
中間処理施設整備基本計画策定 及び生活環境影響調査業務委託	87, 320	79, 920	平成 30 年度から 2 年度以内	

(4) 繰越事業

① 翌年度への繰越事業

平成 30 年度に繰り越す事業は、次のとおりです。

(単位 千円)

区分	款	事業名	繰越額	左の財源内訳		
				既収入 特定財源	未収入 特定財源	一般財源
繰越明許費	情報処理費	住民基本台帳 システム改修	15,520		分担金及 び負担金 15,520	

(5) 主要施策の成果概要

① 西胆振地域廃棄物広域処理事業

ごみ処理施設の平成 29 年度のごみ搬入量は、前年度の可燃ごみ 41,673.41 トン、不燃・粗大ごみ 8,950.51 トン、合計 50,623.92 トンから、可燃ごみ 40,687.62 トン、不燃・粗大ごみ 10,776.34 トン、合計 51,463.96 トンとなり、約 840 トン、1.7%の増量となりました。これは、伊達市における台風災害により生じた河川流木の搬入が主な要因と考えられます。

平成 29 年度も、西胆振地域廃棄物広域処理施設の運転保守管理受託会社である西胆振環境㈱に対し、広域処理施設の安定的な運営の継続を目的として、500,100 千円の暫定的な経営支援を行いました。

② 最終処分場運営事業

最終処分場の平成 29 年度のごみ埋立量は脱塩残渣 1,652.81 トン、処理不適物等 3,905.12 トンの合計 5,557.93 トン。覆土は 814 トンでした。

また、遮水シート張替工事を実施し、3,920 m²張り替えました。

③ リサイクルプラザ運営事業

平成 29 年度の資源ごみ処理量は、缶類 394.96 トン、びん類 833.38 トン、ペットボトル 389.44 トン、合計 1,617.78 トンで、アルミ缶、スチール缶、ペットボトルの売払で 50,986 千円、また日本容器包装リサイクル協会からの有償入札拠出金及び再商品化合理化拠出金で 6,140 千円の収入がありました。ペットボトルの処理では、日本容器包装リサイクル協会への引き渡し（指定法人ルート）が 179.29 t、民間事業者への売却（独自ルート）が 210.15 t で、独自ルートでは 3 カ月ごとの入札により事業者を決定しました。

環境学習施設では、廃油石けん作りや和こものづくりなど各種体験学習講座、夏休みの小学生向けの特別講座のほか、不用品のフリーマーケットを行い、施設見学と合わせて 5,051 人の利用がありました。

また、再生家具の展示・販売を 6 月、9 月、1 月の 3 回行い、38 件で 69 千円の売払収入がありました。

④余熱利用施設等運営事業

げんき館ペトトルにおいては、午後1時から8時までの一般利用のほかに、午前中の専用利用では、近隣の小学校のプール授業での活用、指定管理者による健康増進・ダイエットを目的としたアクアエクササイズ教室や水泳教室の開催、キッズパーク（幼児の遊び場）の通年開催など利用拡大に努めました。その結果、利用者数は、温水プール22,648人（小学校プール授業5,531人を含む）、体育館17,386人、多目的室1,934人（キッズパーク1,370人を含む）の合計41,968人となり、6,979千円の利用料金収入がありました。

⑤共同電算システム運用事業

共同電算システムの運用では、「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」に対応し、北海道国民健康保険団体連合会が運用する市町村事務処理標準システム（北海道クラウド）へ各市町が参加することに伴い、関連する各種業務システムからのデータ移行及び連携システムの構築を進めたほか、社会保障・税番号制度に係る特定個人情報データ標準レイアウト改版対応などでも経費縮減を図ることが出来ました。

2 主要な施策の成果

(1) 一般会計

款	目	事業名	決算額	財源	
				特定	地方債
			国道支出金		
情報処理費	情報処理費	西いぶりデータセンター運営管理経費	13,980		
		共同電算システム運用経費	380,744		
		西いぶりデータセンター整備事業費	209,808		
ごみ処理費	ごみ処理総務費	循環型社会形成推進地域計画策定業務等委託料	7,442		
	中間処理施設運営費	中間処理施設管理運営経費	1,196,184		
	最終処分場運営費	最終処分場管理運営経費	93,317		
	リサイクルプラザ運営費	リサイクルプラザ管理運営経費	63,774		
土木費	余熱利用施設等運営費	余熱利用施設等管理運営経費	44,690		

内 訳		事業等実施の成果概要	
源	一般財源		
その他			
	13,980	データセンターの維持管理	
	380,744	システム保守業務委託	8件
		機器保守業務委託	4件
		制度改正等対応業務委託	25件
	209,808	帳票処理機器等更新 外	
	7,442	「西いぶり広域連合地域循環型社会形成推進地域計画」策定 (計画期間：H30～H36)	
171,245	1,024,939	ごみ搬入量	51,463.96t
		可燃ごみ	40,687.62t
		不燃・粗大ごみ	10,776.34t
		周辺環境モニタリング (大気環境)	
		使用済み乾電池処理量	0kg
		西胆振環境(株)特例委託費	
19,834	73,483	ごみ埋立量	5,557.93t
		脱塩残渣	1,652.81t
		処理不適物等	3,905.12t
		覆土量	814t
		残余容量	976,180m ³
		遮水シート張替	3,920m ²
57,242	6,532	資源ごみ処理量	1,617.78t
		缶類	394.96t
		びん類	833.38t
		ペットボトル	389.44t
		(ペットボトル処理の内訳)	
		指定法人ルート	179.29 t
		独自ルート	210.15 t
		環境学習施設利用者数	5,051人
		体験学習 (紙すき、廃油石けん作り等)	51人
		夏休み・冬休み講座等	2,803人
		施設見学・フリーマーケット	2,197人
		再生家具の展示・販売 (年3回)	38件
197	44,493	げんき館ペトトル利用者	41,968人
		温水プール (自主事業受講者含む)	17,117人
		体育館 (自主事業受講者含む)	17,386人
		多目的室・研修室・健康情報室	564人
		小学校プール授業	5,531人
		キッズパーク	1,370人